

私たちの地域を「よく」するために

～これからの曾爾村のために私たちができることを考えて実践しよう～

令和4年1月5日

曾爾小中学校 教諭

小谷 太一郎

1 単元名 『私たちの地域を「よく」するために』

～これからの曾爾村のために私たちができることを考えて実践しよう～（中学校第3学年国語）

2 目標

(1) 国語科としての目標

- ・目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。（書くことの内容ア）
- ・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えるとともに、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。（読むことの内容イエ）
- ・自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。（話すこと聞くことの内容イ）

(2) ESDの目標

- ・全国の各自治体の実態と取り組みから、広く多様な視点で社会の在り方を知り、人との関わりのなかで生まれる持続性について考えるとともに、目的のために積極的に行動することができる。
- ・自分の住む地域の伝統的な魅力や自然環境の特色を捉え、未来へ繋いでいくためにどうしたらよいか自分事として考えること。

3 単元について

本校は、奈良県の東端に位置する曾爾村という所にある。曾爾村は、人口1,300人程度の地域で、市街地から距離がある「へき地」である。しかし、江戸時代には、奈良や大阪から伊勢神宮へ参拝する「伊勢街道」の宿場町として栄えた歴史があり、人々が紡いできた伝統的な芸能や文化が残る場所である。また、人々の心をうつ美しい自然が残り、時季には多くの観光客が訪れる景勝地でもある。

そして、この地域ではそれらを大切に残し、発信していこうとする人たちが活発に動いている。それは曾爾村に住み、曾爾村の魅力に惹かれた人たちである。なかでも「そにのわグローカル」という団体は、村と綿密につながりながら、訪れる人々がそこにある自然や生活、文化、伝統を、「曾爾を」体験するということに重きをおいたプログラムをつくりあげ、評判を呼んでいる。例えば、「そにのわの台所 katte」では地元農家が生産した野菜を直売、加工販売しているが、そこでは食について学ぶ体験として、曾爾村の住民による、村の素材を活かした料理教室が定期的にひらかれている。他にも、古民家での暮らしを体験したり、村民と共に野菜を収穫して調理したり、観光客により深く地域と交流する経験を提供している。大規模な観光地をつくらうとしているのではなく、訪れた人の一人一人が着実にこの地域を好きにな

ってもらえるような、そんな曾爾村をのこしていきたいという思いがある。

本校の児童生徒は、「屏風岩」「曾爾高原」などといった曾爾村の自然や「漆工芸」「獅子舞踊」などの伝統的な文化の価値に低学年時から触れる機会が幾度かあった。そのことから、曾爾村に愛着を持ち、「ふるさと」として大事に思う生徒が多く見られる。

国語科として、調べた情報を多様な視点からまとめ、相手に伝わりやすいように表現を工夫して書いたり、話し合って意見を伝えたりすることを主な活動として据えながら、言葉を意識させた授業を展開したい。特に話し合う活動では、地域の活性化のために自分たちができる行動について、個人の意見をもとに学級で討議し、全員で決めたことを実際にやってみるところまで、一貫した生徒主体の授業を図りたい。

本単元は、多くが来年度からこの曾爾村を離れて過ごすことになる生徒である九年生（後期課程三年）を対象に行い、そのような生徒らにとって、改めて自分たちが住んできた地域について見つめなおす機会となり、地域学習の総まとめとしての位置づけになると考えている。そして、これまでただそこにあり、ぼんやりと受け取るものでしかなかった「地域」という存在に対して、自分たちが責任を担う、行動の対象であるという自覚をもつことができると期待している。

4 単元のESD的視点

(1) その題材で働かせるESDの見方・考え方

- ・相互性…私たちの行動によって資源を守ることができるということ。
- ・有限性…観光などを支える自然資源は限りあるということ。
- ・連携性…地域の発展や活性化は、人と人との関係性のなかで実現している。
- ・責任性…私たちが住む地域は当たり前存在するのではなく、私たちが守り繋いでいくもの。

(2) その学習を通して育てられるESDの資質・能力

- ・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）
 - …地域活性化のための自治体や公共団体の取り組みを調べて批評し、自分たちの地域に活用するために捉えなおす。
- ・コミュニケーションを行う力
 - …授業内グループワークや討議での協働のみならず、村の魅力や課題を再発見するための情報収集では地域の方々から話を聞く必要がある。
- ・未来像を予測し計画を立てる力
 - …現状を把握し、そこから10年後、20年後先を見据えて今できる取り組みを考える。

(3) その学習を通して育てられるESDの価値観

- ・世代間の公正
 - …この先の世代にわたって人々が曾爾村を大事に思うことができることが重要だとする考え。

(4) その学習で達成されるSDGs

- ① 持続可能な都市の形成

5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報の関係について理解を深めながら、伝わりやすい表現を用いている。 ・社会と自分との関わりを意識しながら、観点を明確にして文章を分析している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住む地域についての理解を深め、その価値についての自分の立場や考えを明確にしている。 ・論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、相手の反応をみながら意見を伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを理解し、自分たちで大事に残していこうとする目的意識をもって話し合いに取り組んでいる。

6 単元展開の概要

時	主な学習活動と内容	教師の支援	評価
1	導入(みつめる) <ul style="list-style-type: none"> ・<u>マインドマップ</u>を使い、曾爾村について知っていることやそこから連想される思いを書き出し、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれ育ったこの地域にもつ、生徒それぞれの感情を自覚させる。 ・「ふるさと」としての曾爾、観光地としての曾爾、曾爾の産業など、様々な視点があることに気付かせる。 	目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料のなかで伝えたいことを明確にして論を構成している。
2	これまでの自分と曾爾村のつながりを見つめ、表現と構成を工夫しながら、自分の思いを説得力のある文章で伝えよう。		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・書き出した情報をもとに「私と曾爾」という題で、論理の展開を意識して文章を書く。 ・書きあげた文章をグループで共有し、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで総合学習等で地域について学んだ内容をふり返らせる。 ・教科書『説得力のある構成を考えよう』を用いて、話の構成を考える手段を確認させる。 ・教科書の例をもとに、文章の構成や表現の方法を意識させて推敲しながら文章をしあげるように促す。 	
4	展開I(しらべる) <ul style="list-style-type: none"> ・教師の発表を聞き、気付いたことをペアで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が調べた他自治体の情報を発表する。図や表、レイアウト、書き方やまとめかた等を意識して書き、あとから解説する。 	
	「曾爾の専門家」になり、図や表を用いて調べた情報を分かりやすく伝えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・曾爾村について書きたい内容をマインドマップ等から決める。「曾爾の自然・観光」「曾爾の伝統文化」など。 ・情報のまとめかた、見やすい図表に 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報の比較のしかたや、図表の使い方について教科書の例を参考に解説する。 	

5	<p>ついて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットやインターネット、書籍などから情報を収集する。 ・集めた情報を整理、分析し、項目を意識して端的にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の扱い方や引用の仕方に注意させる。 ・各々がまとめた用紙を掲示する。 	
6	<p>展開2(ふかめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曾爾村で実際に活動されている、一般社団法人「そののわグローバル」や、「そののわマルシェ」に従事している方から話を聞く。 ・感想や気づきを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この地域を「よく」しようとしている人と出会い、その方法と目的などに注目する。 ・その目的から、反面、これらの取り組みがなぜ必要なのか、問いかけ、へき地が抱える課題を考えさせる。 	
7	<p>全国各地の自治体の実態や活性化に向けた取り組み、キャッチコピーなどに注目し、それに対する批評文を書こう。</p>		<p>文章を批判的に読みながら、文章に表れている</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の教材を読んで、<u>批評文</u>とは何か、知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『多角的に分析して書こう』から、批評文の書き方を解説する。 	<p>ものの見方や考え方について考</p>
9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体の地域活性化のための取り組みをインターネット等で調べる。 ・その取り組みの価値や課題を明らかにした批評文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そのものの価値を見いだすため、分析には、観点を明確にすることが必要であることを意識させる。また、観点の違いで、見え方が異なることにも注目させる。 ・一冊の文集としてまとめ、配布する。 	<p>えるとともに、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもてている。</p>

11	<p>表現活動(ふかめる・ひろげる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングを用いて「曽爾村を(もっと)よくするために、私たちが出来ること」について自分の意見を考える。 ・自分の意見をまとめ、書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習したことや、他の自治体の取り組みをふまえて、思いつくままにアイデアを出すように促す。 ・具体的に想像できない生徒や、一つに決められない生徒には、助言し一緒に考える。そして、取り組みの目的や理由を含めて、具体的に考えられるようにする。 	<p>住む地域の伝統的な魅力や自然環境の特色を捉え、未来へ繋いでいくためにどうしたらよいか自分事として考えている。</p>
<p>曽爾村をよりよくしていくために、私たちが取り組むことについて話し合い、 目標と具体的な方策を考えて実践しよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・過去に学習した集団討議の方法を復習し、教科書『合意形成に向けて話し合おう』を確認しながら、話し合いを進める。 <p>想定される取り組み:</p> <p>役場に冬祭り開催を提案する。観光客向けのショートムービーをつくる。パンフレットを作成する。マスコットキャラクターを考える。…</p>	<p>自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの意見を発表し合い、これから私たちが取り組む内容を決定する。 ・内容が確定した時点で、その取り組みに向けて動く。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の過程と、取り組み、その成果(の予想)をスライドショーにまとめる。 ・下級生に向けて発表する。 		